

2022 年 6 月のおでかけ指数

～全国的に人流回復続く。都市部も回復へ

2022 年 7 月 13 日

公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部

九経調 DATASALAD (<https://datasalad.jp/>) では、景気、産業、社会に関する政府統計に加え、人流や求人等のビッグデータ・オルタナティブデータを、地域の景気や産業の動向を分析する指標として加工、可視化している。

本稿では、当会が提供している人流モニタリングプラットフォーム「おでかけウォッチャー」(<https://odekake-watcher.info/>) の掲載データ¹の一部を集約した「おでかけ指数²」により、2022 年 6 月における全国の人流動向を分析する。なお、DATASALAD 上では、来訪地側（着地側）と発地側の 2 種類の「おでかけ指数」を公表しているが、本稿では主に来訪地側を取り上げる。



1. 全国のおでかけ指数：7 カ月連続で前年を上回る

2022 年 6 月における全国のおでかけ指数は 57.0 となった（図 1）。季節要因から前月に比べて低下したものの、前年比で +52.8% と 7 カ月連続で前年を上回った（図 2）。また 2019 年同月比では▲33.9% となり、コロナ禍以後（影響が本格化した 2020 年 3 月以降）で最もマイナス幅が小さくなった。Go To トラベルの後押しがあった 2020 年 9～11 月や、コロナ禍の第 5 波と第 6 波の間で人流が回復した 2021 年 10～12 月を超えており、回復傾向が継続した。

図 1 おでかけ指数の月次推移（全国）

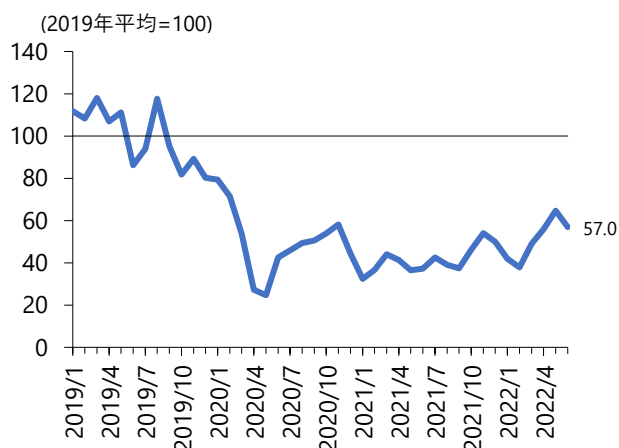
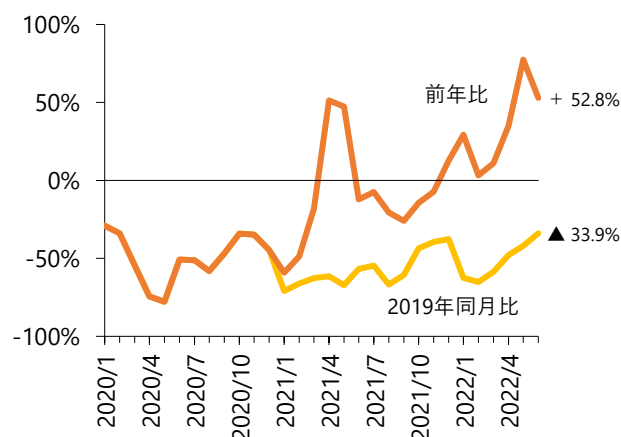


図 2 おでかけ指数前年比・2019 年同月比（全国）



注) 2022 年 7 月 3 日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

¹ 「おでかけウォッチャー」で提供している位置情報ビッグデータは、株式会社ブログウォッチャーより提供を受けたものであり、承諾を得たユーザー（月間 2,500 万 MAU）のスマートフォンから取得したものである。

² おでかけ指数は、新型コロナウイルス感染拡大前である 2019 年の日平均を 100 とした指数である。

2. 地域ブロック別のおでかけ指数： 東日本を中心に人流回復が進む

2022年6月のおでかけ指数を12の地域ブロック別にみると、特に北海道(80.4)や東北(69.2)、甲信越(68.8)など東日本の地方圏で高くなった(表1、表2)。前年との比較では、第4波における緊急事態宣言等の行動制限があった反動から、沖縄(前年比+137.4%)、北海道(同+86.1%)、近畿(同+58.9%)、南関東(同+56.7%)など前年の落ち込みが大きかった地域で前年比が高くなっている。コロナ禍前の2019年同月との比較では、甲信越で▲14.4%、北海道で同▲18.1%とマイナス幅が縮小し、人流回復が進んでいる。北海道はコロナ禍後で最小のマイナス幅である。南関東は同▲43.8%と比較的大きなマイナス幅ではあるが、コロナ禍後では最小となった。これ以外の地域でも、2020年9~11月や2021年10~12月に迫る回復水準となっている。

表1 地域ブロック別おでかけ指数

地域	2022年 6月	前年比	2019年 同月比
全国	57.0	+ 52.8%	▲ 33.9%
北海道	80.4	+ 86.1%	▲ 18.1%
東北	69.2	+ 36.2%	▲ 23.6%
北関東	61.3	+ 35.9%	▲ 24.9%
南関東	50.6	+ 56.7%	▲ 43.8%
甲信越	68.8	+ 53.6%	▲ 14.4%
東海	56.4	+ 43.9%	▲ 32.0%
北陸	58.7	+ 55.3%	▲ 28.5%
近畿	55.6	+ 58.9%	▲ 33.3%
中国	59.8	+ 53.3%	▲ 27.8%
四国	61.6	+ 48.1%	▲ 22.1%
九州	60.7	+ 47.0%	▲ 26.4%
沖縄	54.6	+ 137.4%	▲ 38.1%

注) 2022年7月3日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

表2 地域ブロック別おでかけ指数 指数・2019年同月比によるソート

< 指数順 >

順位	地域	2022年 6月	前年比	2019年 同月比
1	北海道	80.4	+ 86.1%	▲ 18.1%
2	東北	69.2	+ 36.2%	▲ 23.6%
3	甲信越	68.8	+ 53.6%	▲ 14.4%
4	四国	61.6	+ 48.1%	▲ 22.1%
5	北関東	61.3	+ 35.9%	▲ 24.9%
6	九州	60.7	+ 47.0%	▲ 26.4%
7	中国	59.8	+ 53.3%	▲ 27.8%
8	北陸	58.7	+ 55.3%	▲ 28.5%
9	東海	56.4	+ 43.9%	▲ 32.0%
10	近畿	55.6	+ 58.9%	▲ 33.3%
11	沖縄	54.6	+ 137.4%	▲ 38.1%
12	南関東	50.6	+ 56.7%	▲ 43.8%

< 2019年同月比順 >

順位	地域	2022年 6月	前年比	2019年 同月比
1	甲信越	68.8	+ 53.6%	▲ 14.4%
2	北海道	80.4	+ 86.1%	▲ 18.1%
3	四国	61.6	+ 48.1%	▲ 22.1%
4	東北	69.2	+ 36.2%	▲ 23.6%
5	北関東	61.3	+ 35.9%	▲ 24.9%
6	九州	60.7	+ 47.0%	▲ 26.4%
7	中国	59.8	+ 53.3%	▲ 27.8%
8	北陸	58.7	+ 55.3%	▲ 28.5%
9	東海	56.4	+ 43.9%	▲ 32.0%
10	近畿	55.6	+ 58.9%	▲ 33.3%
11	沖縄	54.6	+ 137.4%	▲ 38.1%
12	南関東	50.6	+ 56.7%	▲ 43.8%

注) 2022年7月3日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

3. 都道府県別のおでかけ指数：大都市も回復傾向へ

2022年6月のおでかけ指数を47都道府県別にみると、指数の上位には北海道(80.4)、山形県(75.3)、青森県(74.8)、長野県(74.8)など東日本の地方圏が並び、下位には東京都(49.6)、千葉県(50.6)、大阪府(52.3)、埼玉県(52.4)など三大都市およびその周辺の都府県が並ぶ(表3、表4)。2019年同月比でみて、長野県は▲2.9%と、2019年水準への回復が目前となっている。また高知県(同▲11.9%)、岐阜県(同▲17.0%)、熊本県(同▲17.2%)、宮崎県(同▲17.8%)なども回復傾向が強い。2019年同月比のマイナス幅がコロナ禍後で最小となったのは、三大都市を含む12都道府県(北海道、青森県、東京都、長野県、岐阜県、愛知県、大阪府、山口県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県)である。東京都(同▲46.4%)や大阪府(同▲39.0%)はいまだマイナス幅が大きいものの、ようやく回復が進みつつある。

表3 都道府県別おでかけ指数

地域	2022年6月	前年比	2019年同月比	地域	2022年6月	前年比	2019年同月比
全国	57.0	+ 52.8%	▲ 33.9%	三重県	53.5	+ 39.0%	▲ 32.5%
北海道	80.4	+ 86.1%	▲ 18.1%	滋賀県	56.5	+ 33.6%	▲ 27.7%
青森県	74.8	+ 44.1%	▲ 18.4%	京都府	59.3	+ 78.6%	▲ 25.9%
岩手県	73.8	+ 40.0%	▲ 18.9%	大阪府	52.3	+ 67.1%	▲ 39.0%
宮城県	61.7	+ 36.5%	▲ 31.1%	兵庫県	56.5	+ 52.3%	▲ 32.9%
秋田県	72.5	+ 24.1%	▲ 22.3%	奈良県	62.3	+ 37.2%	▲ 23.9%
山形県	75.3	+ 33.3%	▲ 24.2%	和歌山県	60.3	+ 32.8%	▲ 24.0%
福島県	67.2	+ 37.7%	▲ 20.8%	鳥取県	61.8	+ 41.4%	▲ 25.5%
茨城県	62.7	+ 27.4%	▲ 25.4%	島根県	61.1	+ 43.4%	▲ 24.6%
栃木県	57.5	+ 31.0%	▲ 27.2%	岡山県	55.4	+ 58.3%	▲ 32.0%
群馬県	63.2	+ 53.8%	▲ 21.8%	広島県	60.3	+ 60.4%	▲ 30.0%
埼玉県	52.4	+ 35.4%	▲ 37.6%	山口県	64.3	+ 45.5%	▲ 18.3%
千葉県	50.6	+ 37.9%	▲ 40.0%	徳島県	59.2	+ 43.7%	▲ 25.3%
東京都	49.6	+ 65.3%	▲ 46.4%	香川県	55.5	+ 54.6%	▲ 28.7%
神奈川県	53.9	+ 48.9%	▲ 37.0%	愛媛県	62.9	+ 43.3%	▲ 21.8%
新潟県	65.9	+ 31.3%	▲ 20.0%	高知県	69.4	+ 52.9%	▲ 11.9%
富山県	59.4	+ 44.2%	▲ 27.4%	福岡県	60.4	+ 58.1%	▲ 30.1%
石川県	56.6	+ 66.0%	▲ 33.8%	佐賀県	58.2	+ 26.5%	▲ 25.3%
福井県	61.6	+ 50.6%	▲ 19.6%	長崎県	58.9	+ 48.7%	▲ 26.7%
山梨県	62.8	+ 45.7%	▲ 24.7%	熊本県	64.6	+ 35.4%	▲ 17.2%
長野県	74.8	+ 82.4%	▲ 2.9%	大分県	61.0	+ 43.5%	▲ 22.7%
岐阜県	64.1	+ 46.3%	▲ 17.0%	宮崎県	63.7	+ 37.3%	▲ 17.8%
静岡県	53.9	+ 32.4%	▲ 31.9%	鹿児島県	58.6	+ 45.8%	▲ 28.5%
愛知県	56.9	+ 53.0%	▲ 35.2%	沖縄県	54.6	+ 137.4%	▲ 38.1%

注) 2022年7月3日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

表 4 都道府県別おでかけ指数 指数・2019年同月比によるソート

< 指数順 >

順位	地域	2022年6月	前年比	2019年同月比
1	北海道	80.4	+ 86.1%	▲ 18.1%
2	山形県	75.3	+ 33.3%	▲ 24.2%
3	青森県	74.8	+ 44.1%	▲ 18.4%
	長野県	74.8	+ 82.4%	▲ 2.9%
5	岩手県	73.8	+ 40.0%	▲ 18.9%
6	秋田県	72.5	+ 24.1%	▲ 22.3%
7	高知県	69.4	+ 52.9%	▲ 11.9%
8	福島県	67.2	+ 37.7%	▲ 20.8%
9	新潟県	65.9	+ 31.3%	▲ 20.0%
10	熊本県	64.6	+ 35.4%	▲ 17.2%
11	山口県	64.3	+ 45.5%	▲ 18.3%
12	岐阜県	64.1	+ 46.3%	▲ 17.0%
13	宮崎県	63.7	+ 37.3%	▲ 17.8%
14	群馬県	63.2	+ 53.8%	▲ 21.8%
15	愛媛県	62.9	+ 43.3%	▲ 21.8%
16	山梨県	62.8	+ 45.7%	▲ 24.7%
17	茨城県	62.7	+ 27.4%	▲ 25.4%
18	奈良県	62.3	+ 37.2%	▲ 23.9%
19	鳥取県	61.8	+ 41.4%	▲ 25.5%
20	宮城県	61.7	+ 36.5%	▲ 31.1%
21	福井県	61.6	+ 50.6%	▲ 19.6%
22	島根県	61.1	+ 43.4%	▲ 24.6%
23	大分県	61.0	+ 43.5%	▲ 22.7%
24	福岡県	60.4	+ 58.1%	▲ 30.1%
25	和歌山県	60.3	+ 32.8%	▲ 24.0%
	広島県	60.3	+ 60.4%	▲ 30.0%
27	富山県	59.4	+ 44.2%	▲ 27.4%
28	京都府	59.3	+ 78.6%	▲ 25.9%
29	徳島県	59.2	+ 43.7%	▲ 25.3%
30	長崎県	58.9	+ 48.7%	▲ 26.7%
31	鹿児島県	58.6	+ 45.8%	▲ 28.5%
32	佐賀県	58.2	+ 26.5%	▲ 25.3%
33	栃木県	57.5	+ 31.0%	▲ 27.2%
34	愛知県	56.9	+ 53.0%	▲ 35.2%
35	石川県	56.6	+ 66.0%	▲ 33.8%
36	滋賀県	56.5	+ 33.6%	▲ 27.7%
	兵庫県	56.5	+ 52.3%	▲ 32.9%
38	香川県	55.5	+ 54.6%	▲ 28.7%
39	岡山県	55.4	+ 58.3%	▲ 32.0%
40	沖縄県	54.6	+ 137.4%	▲ 38.1%
41	神奈川県	53.9	+ 48.9%	▲ 37.0%
	静岡県	53.9	+ 32.4%	▲ 31.9%
43	三重県	53.5	+ 39.0%	▲ 32.5%
44	埼玉県	52.4	+ 35.4%	▲ 37.6%
45	大阪府	52.3	+ 67.1%	▲ 39.0%
46	千葉県	50.6	+ 37.9%	▲ 40.0%
47	東京都	49.6	+ 65.3%	▲ 46.4%

< 2019年同月比順 >

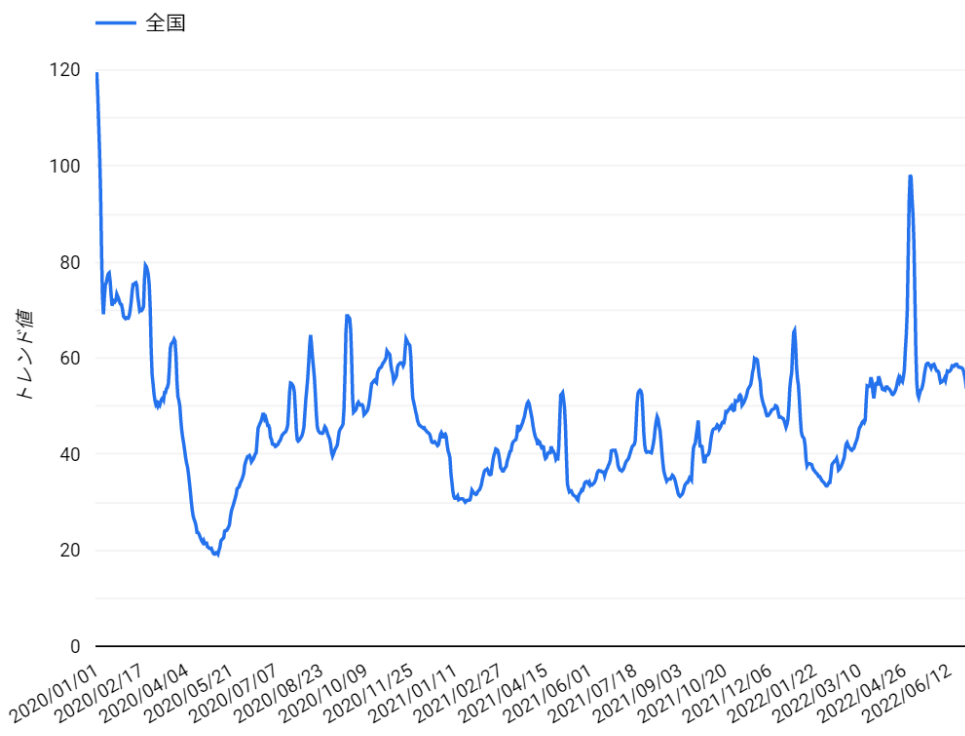
順位	地域	2022年6月	前年比	2019年同月比
1	長野県	74.8	+ 82.4%	▲ 2.9%
2	高知県	69.4	+ 52.9%	▲ 11.9%
3	岐阜県	64.1	+ 46.3%	▲ 17.0%
4	熊本県	64.6	+ 35.4%	▲ 17.2%
5	宮崎県	63.7	+ 37.3%	▲ 17.8%
6	北海道	80.4	+ 86.1%	▲ 18.1%
7	山口県	64.3	+ 45.5%	▲ 18.3%
8	青森県	74.8	+ 44.1%	▲ 18.4%
9	岩手県	73.8	+ 40.0%	▲ 18.9%
10	福井県	61.6	+ 50.6%	▲ 19.6%
11	新潟県	65.9	+ 31.3%	▲ 20.0%
12	福島県	67.2	+ 37.7%	▲ 20.8%
13	愛媛県	62.9	+ 43.3%	▲ 21.8%
14	群馬県	63.2	+ 53.8%	▲ 21.8%
15	秋田県	72.5	+ 24.1%	▲ 22.3%
16	大分県	61.0	+ 43.5%	▲ 22.7%
17	奈良県	62.3	+ 37.2%	▲ 23.9%
18	和歌山県	60.3	+ 32.8%	▲ 24.0%
19	山形県	75.3	+ 33.3%	▲ 24.2%
20	島根県	61.1	+ 43.4%	▲ 24.6%
21	山梨県	62.8	+ 45.7%	▲ 24.7%
22	徳島県	59.2	+ 43.7%	▲ 25.3%
23	佐賀県	58.2	+ 26.5%	▲ 25.3%
24	茨城県	62.7	+ 27.4%	▲ 25.4%
25	鳥取県	61.8	+ 41.4%	▲ 25.5%
26	京都府	59.3	+ 78.6%	▲ 25.9%
27	長崎県	58.9	+ 48.7%	▲ 26.7%
28	栃木県	57.5	+ 31.0%	▲ 27.2%
29	富山県	59.4	+ 44.2%	▲ 27.4%
30	滋賀県	56.5	+ 33.6%	▲ 27.7%
31	鹿児島県	58.6	+ 45.8%	▲ 28.5%
32	香川県	55.5	+ 54.6%	▲ 28.7%
33	広島県	60.3	+ 60.4%	▲ 30.0%
34	福岡県	60.4	+ 58.1%	▲ 30.1%
35	宮城県	61.7	+ 36.5%	▲ 31.1%
36	静岡県	53.9	+ 32.4%	▲ 31.9%
37	岡山県	55.4	+ 58.3%	▲ 32.0%
38	三重県	53.5	+ 39.0%	▲ 32.5%
39	兵庫県	56.5	+ 52.3%	▲ 32.9%
40	石川県	56.6	+ 66.0%	▲ 33.8%
41	愛知県	56.9	+ 53.0%	▲ 35.2%
42	神奈川県	53.9	+ 48.9%	▲ 37.0%
43	埼玉県	52.4	+ 35.4%	▲ 37.6%
44	沖縄県	54.6	+ 137.4%	▲ 38.1%
45	大阪府	52.3	+ 67.1%	▲ 39.0%
46	千葉県	50.6	+ 37.9%	▲ 40.0%
47	東京都	49.6	+ 65.3%	▲ 46.4%

注) 2022年7月3日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

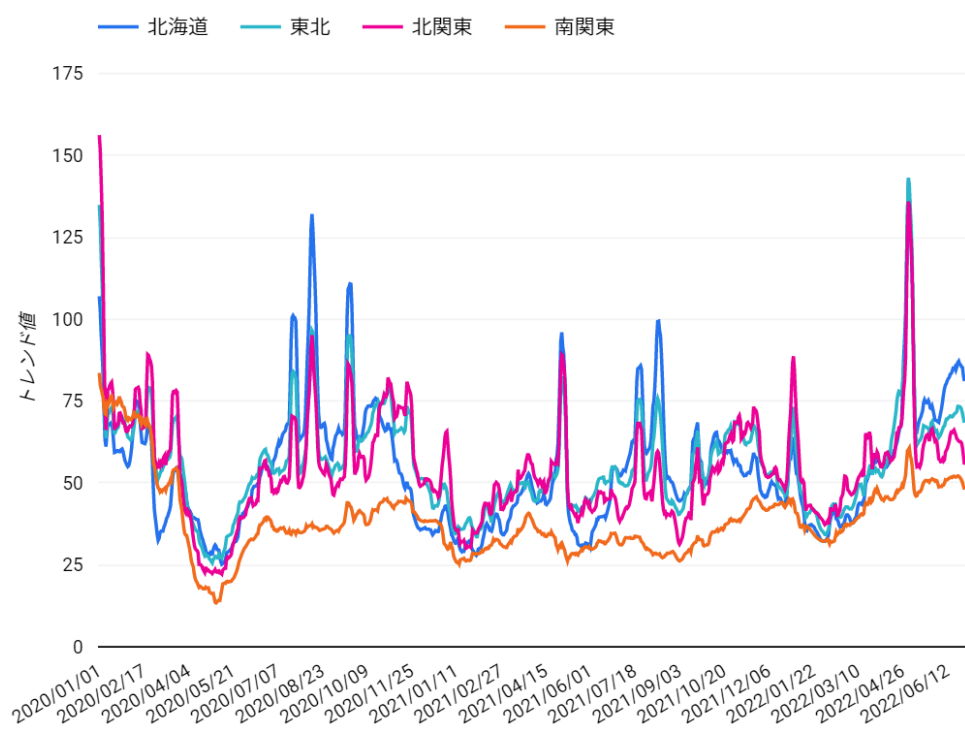
4. 日次推移

図3 地域ブロック別の日次推移（トレンド値）

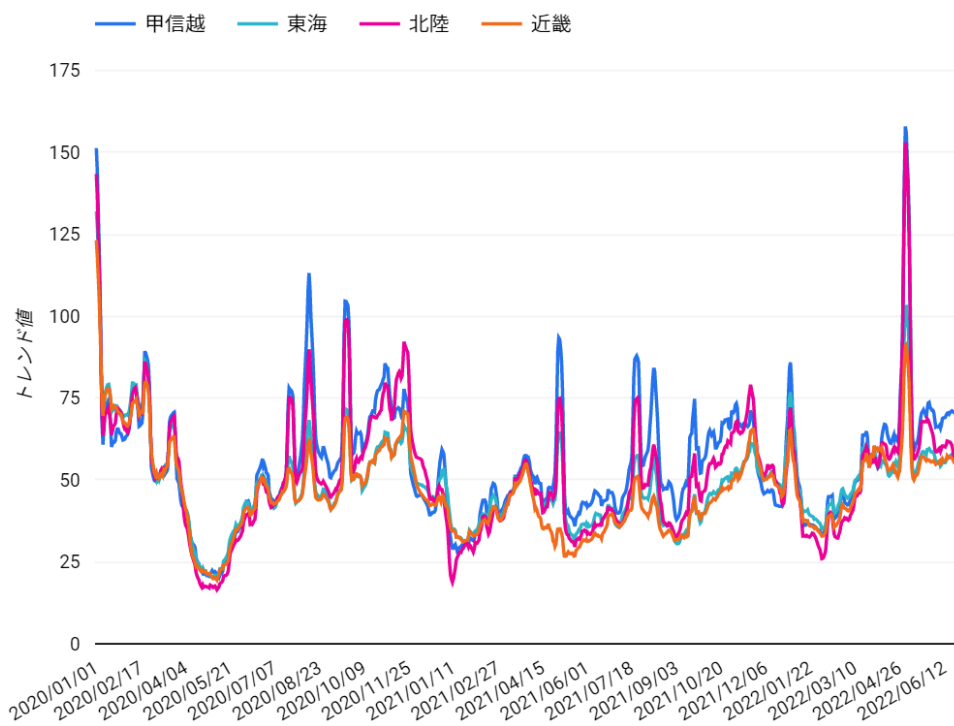
<全国>



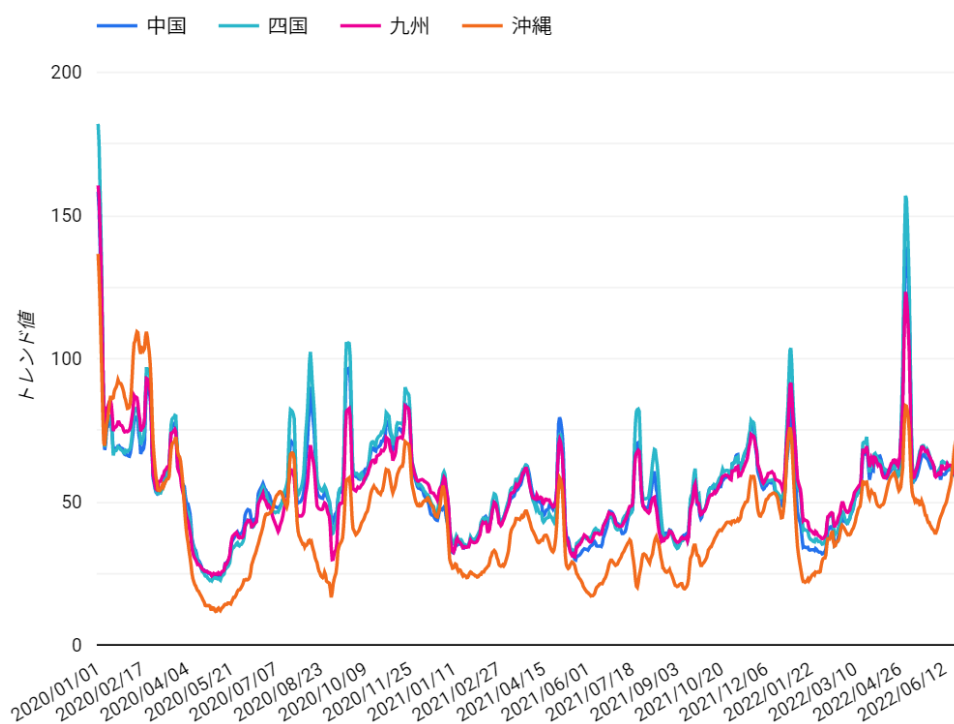
<北海道～南関東>



< 甲信越～近畿 >



< 中国～沖縄 >



注) 2022 年 7 月 3 日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

小柳 真二 (事業開発部 主任研究員)

E-mail: skoyanagi@kerc.or.jp

参考：おでかけ指数の定義・算出方法

おでかけ指数は、市区町村別の人流をコロナ禍前の 2019 年を基準に指数化したものである。これを、来訪地側（着地側。ある市区町村への来訪者数）と、発地側（ある市区町村（居住地域とみなされる市区町村）からの出発者数）の双方について算出している。具体的には、以下のようなルールである（試作版のため、今後変更の可能性がある）。

①対象期間、公表時期

来訪地側・発地側とも 2019 年 1 月以降である。おでかけウォッチャー（以下、OW）と同じく、毎週月～日曜日のデータを翌木曜日に公表する。

②モニタリングスポット、市区町村ごとのユニーク化

OW では、各市区町村につき最大 20 地点をモニタリングスポットとして設定し、それらの地点のいずれかを訪れた人数を市区町村別来訪者数として算出している（複数地点を訪れた場合も 1 人とカウント）。来訪地側（着地側）のおでかけ指数で用いるのは、この市区町村別来訪者数である。また発地側は同じデータを発地側で集計した人数を基としている。

OW では各市区町村（基礎自治体）がモニタリングスポットを任意の地点に変更できるサービスとしているが、おでかけ指数ではデータの連続性を保つ観点から、OW のリリース時点（2021 年 10 月）に九経調がデフォルトとして設定したスポット（※）を対象としている。

※各市区町村において来訪者数（2019 年のゴールデンウィークにおける 250m メッシュ別の来訪者数）が上位 20 のメッシュを選定した。ただし、選定の際には、より上位のメッシュと隣接（メッシュ中心間の距離が 500m 以内）するメッシュは除外した。

③人流計測の条件

すべての人流が来訪および出発としてカウントされるのではなく、居住地域とみなされる場所から 20km 以上離れた場所で位置情報が一定時間検出された場合、かつそれが通勤・通学のような日常的な訪問地ではない場合という条件がある。

④指数算出地域

②の通り市区町村別にユニーク化した人数を基礎に指数を算出しているため、厳密には市区町村別の指数を参照いただきたい。ただ、より上位スケールの地域間比較等のニーズもあるため、市区町村別の人数を足し上げて都道府県や地域ブロック別の人数を算出し、それをもとにこれらの地域別の指数も公表している。

⑤算出方法

各地域（市区町村や都道府県等）について、2019 年の 1 日当たり平均人数を 100 として、各日の人数を指数化したものを原数値とする。そのうえで、人流には曜日による変動が大きい特徴があり、原数値のままではトレンドをとらえにくいことから、原数値を 7 日間周期のデータとみなし、トレンド成分（中長期的変動）、曜日成分（曜日による変動）、イベント成分（天候やイベント（催事）等による短期的変動。他の 2 つの残差）の 3 つに要因分解を行うことで、トレンド値および曜日調整値を得る。各数値の計算方法・等式は以下の通りである。

原数値 = (各日人数 ÷ 2019 年の 1 日当たり平均人数) × 100 日次（原数値）

トレンド値 = トレンド成分 = 原数値 - 曜日成分 - イベント成分

曜日調整値 = 原数値 - 曜日成分

⑥一部地域の算出除外

位置情報ビッグデータは個人特定がなされないように抽象化処理がなされたものであり、その過程で閾値未満の人流は秘匿されるため、来訪者数・出発者数のカウントから除外される。したがって、来訪者数・出発者数が毎日計測されていない一部地域（離島等）が存在する。このような地域について⑤のような手法による指数化は、ブレが大きくなるなど必ずしも適切でないため、2019 年において来訪者数・出発者数が計測される日が 180 日未満の自治体については指数を算出しない。